

DX化ビジョンと その実現化計画の策定

現行の基幹システムはDX化を進める上では力不足で、維持管理の体制を継続することも難しいため、DX化推進の目標地点や実現する目指す姿を共同でデザインし、実現に向けたイメージをしっかりと皆で共有した。

▼ 取り組み内容

**Step 1
現状把握** マネジメント層を中心としたキーマンにヒアリングし課題を共有。業務フローなどを整理して現状を明確化。

**Step 2
対策立案** 業務の変革に必要なITのイメージ・要件などを取りまとめ、適用するソリューション情報を収集、選定。

**Step 3
目標の明確化** 業務やシステムの目指す姿を定義し、その先にあるDX化後の状態をビジョン・ステートメントとして取りまとめ。

**Step 4
実行計画策定** Step3で掲げた目標を実現するための実行計画を策定。費用・効果分析をした上で、実現に向けた体制を構築。

受入企業

株式会社 建工ホールディングス 代表取締役 酒井 洋 さん

鉄鋼構造物の一貫製作を手がけるファブリケーター。グループ各社が有する、切断、曲げ、溶接、加工製作の技術を有機的・機動的に連携させることで、すべてのお客様に“新たな価値”を提供する総合力を実現する。阪神甲子園球場をはじめ、全国の球技施設やアリーナを構成する鉄骨や鉄塔のほか、制震デバイス、橋梁などで同社の部材が使われている。

協力研究員

村瀬 司 さん

静岡県出身。名古屋大学大学院工学研究科修了、アンダーセンコンサルティング（現アクセンチュア）、アーサーアンダーセン（現PwCコンサルティング）、KPMG FAS等の会計事務所系ファーム、コンサルティング会社、ソフトウェア会社の経営、ベンチャー投資を経験。東証プライム上場企業の社外取締役、株式会社ファンズオンの代表を務める。

富山“Re-Design”ラボ 事例

CASE:

DX化ビジョンと その実現化計画 の策定



取り組みの成果
・
今後の取り組み

- ・目指していく姿をメンバーで共有し、実現のために必要な要件を明確化したことで、実行可能な計画となった。また、現場の声が反映され、メンバーのモチベーションも高まった。
- ・現状の業務フローを見える化するとともに、ムダの削減など最適化を図り、今後進めるDX化と基幹システムの更新をより効果的にするための土台を作った。
- ・会社に必要、かつ先端のテクノロジー活用の道筋をつけたことで、メンバーの自信につながった。

🏢 受入企業の評価・今後の関わり方

参加理由

- ・現行の基幹システムは社内で制作したもので、運用が属人化している部分も多くあります。事業が拡大する中で、今後も使用し続けるにはリスクもあり、新システムの必要性を感じていました。こうした課題をスキルの高い人材の手を借りて解決したいと考え、参加しました。

評価（成果・社内変化など）

- ・従来のDX化の取り組みは断片的なものでしたが、今回は村瀬さんが全体のビジョンや計画をまとめ、実行する上での指揮者の役割を果たしてくれて、考えていた以上の成果が得られました。
- ・村瀬さんは仕事の流れや各部門での課題などを全部聞き出して、分かりやすく図示してくれました。その結果、現状が整理され、業務フローの最適化が進み、DX化や基幹システム更新の効果を最大限にするための下地が整いました。工場でものづくりに携わる社員の意見を取り入れてくれたので、現場の納得感も大きいと思います。
- ・週4日、一人の仲間として入社していただいて、当社の社員と適時ミーティングなどができた点も、とても良かったと思います。

今後の関わり方

- ・ここまで一緒にビジョンなどをまとめてきましたから、今後の実装に向けても引き続き支援をお願いしたいと思っています。これは経営サイドも社員も同じ意見です。頻度や内容について詰めた上で、村瀬さんの無理のない範囲で、業務委託契約を結ぶ考えです。

👤 協力研究員の評価・今後の展望

参加理由

- ・事業活動に一区切りがつき、コロナも収束に向かう中、今後何をしたいのか、考え始めたタイミングで本プログラムを知りました。リカレントの仕組みに興味を持ったことに加え、中堅・中小企業へのコンサルティング業務提供について研究する機会になると思いました。

評価（取り組み・生活）

- ・これまで経験してきた大企業向けのコンサルタントであれば、4、5人のチームメンバーで提供する情報収集、分析、文書化等の業務を今回は1人でこなす必要がありました。そのため、メリハリをつけた業務遂行を心掛けました。また、個人として信頼を得られるよう、組織を変革できるという確信を持ってもらえるように進めたつもりです。
- ・自分の中ではあらためてこれまでの経験に自信を持てる機会となりました。大学でのリカレント、個性的で優秀な他の研究員との交流でも非常に刺激を受けました。
- ・富山、滑川の良いところを感じる半年でした。一方、温暖な静岡出身の私にとっては、当地での冬の寒さは厳しいとも感じました。

今後の展望

- ・12月以降は、生活のベースを首都圏に置きながら、プロジェクトメンバーが目指す方向に向かう際に出てくるであろう障壁を避けながら、もしくは立ち向かいながら、実現化を進める伴走役として、適時支援をしていく予定です。